
天ヶ岡里づくり計画

天ヶ岡の21世紀に希望と夢を！



平成14年3月

天ヶ岡里づくり協議会

天ヶ岡里づくり計画

天ヶ岡の21世紀に希望と夢を！

1. 集落の概要	1
1) 村の歴史	2
2) 農業等の状況	2
3) 水田利用状況	3
4) 旧所・名跡	5
5) 郷土芸能	7
2. これまでの経過	8
3. アンケート調査結果	10
1) 集落概要調査	10
2) 集落営農に関する意向調査	19
4. 集落の現況	22
1) 土地利用の現況	22
2) 集落内道路の状況	22
3) 航空写真	23
5. 天ヶ岡里づくり計画	24
1) 整備の目標および方針	24
2) 農業振興計画	24
3) 環境整備計画	25
4) 土地利用計画	28
～～資料～～	
1) 天ヶ岡里づくり協議会規約	31
2) 天ヶ岡里づくり協議会役員名簿	33

1. 集落の概要

計画対象地区である天ヶ岡集落は、岩岡町の東部に位置し、北は岩岡町南古集落および神出町宝勢、西は岩岡町赤坂集落、東南部は岩岡町印路に隣接している。

東播台地の東部に位置し、海拔 80～90m の緩やかな丘陵が続く平坦地である。典型的な瀬戸内海気候で、年間降雨量は 1100～1300mm と非常に少なく、昔から農業用水には非常に苦勞をした地域である。少ない降雨量を少しでも有効に利用するため、多くのため池が造られている。

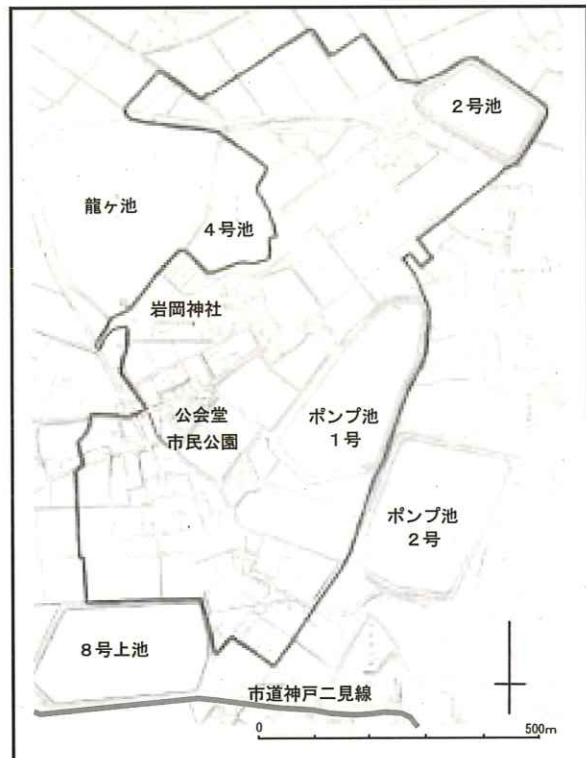
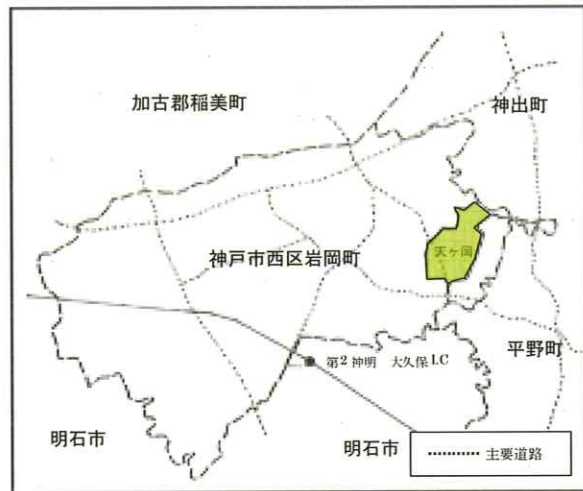
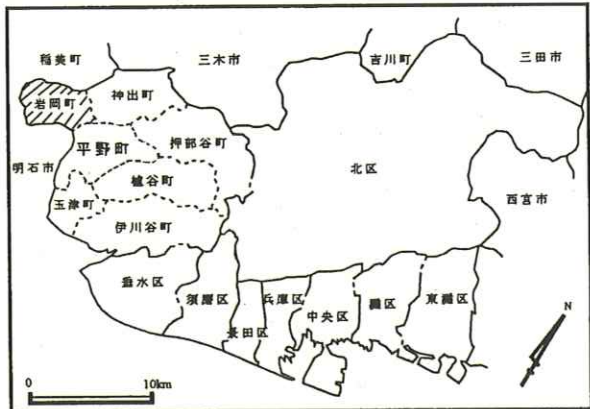
地区内に主要幹線道路は通過していないが、南部には市道神戸二見線が東西に走り、東は野村明石線に、西は県道大久保平荘線に交わっている。

鉄道の最寄駅は J R 大久保駅と市営地下鉄西神中央で、車で 15～20 分を要する。

地区の中央部にはポンプ池があり、周辺農地に水を供給している。

昭和 62 年より土地改良事業が行われ、農地、道路、水路などの基盤整備が完成された。

地区の中央部に岩岡神社があり、毎年 10 月 10 日ごろ秋祭りが盛大に催される。



1) 村の歴史

以前は小さな流れのほとりに北場所、南所、中所という、4－5戸の集団家屋があった。

元和2年領主松平若狭守は天ヶ岡と命名された。

今の岩岡神社の南参道の境内入口あたりに番太屋敷があり、住民の悪事の取締りや藩の専売品である煙草の栽培指導、横流しの取締り等を行った。

ここ岩岡一帯は丘陵地で雨量が少なく、降ってもすぐ下方の村に流れ去り、大変水利に苦しんだ。雨の降ったときの小さな流れも堰き止め、小さな堤防を作ったり、堀を掘ったり、20－30坪の水溜りを作った。溜池新築の時には、下方の村民や天ヶ岡村民と会議し、約定書を差し入れたり、雨の中罌を持って水の流れを争うこともあり、調停の為、村の長達は大変苦勞をした。

2) 農業等の状況

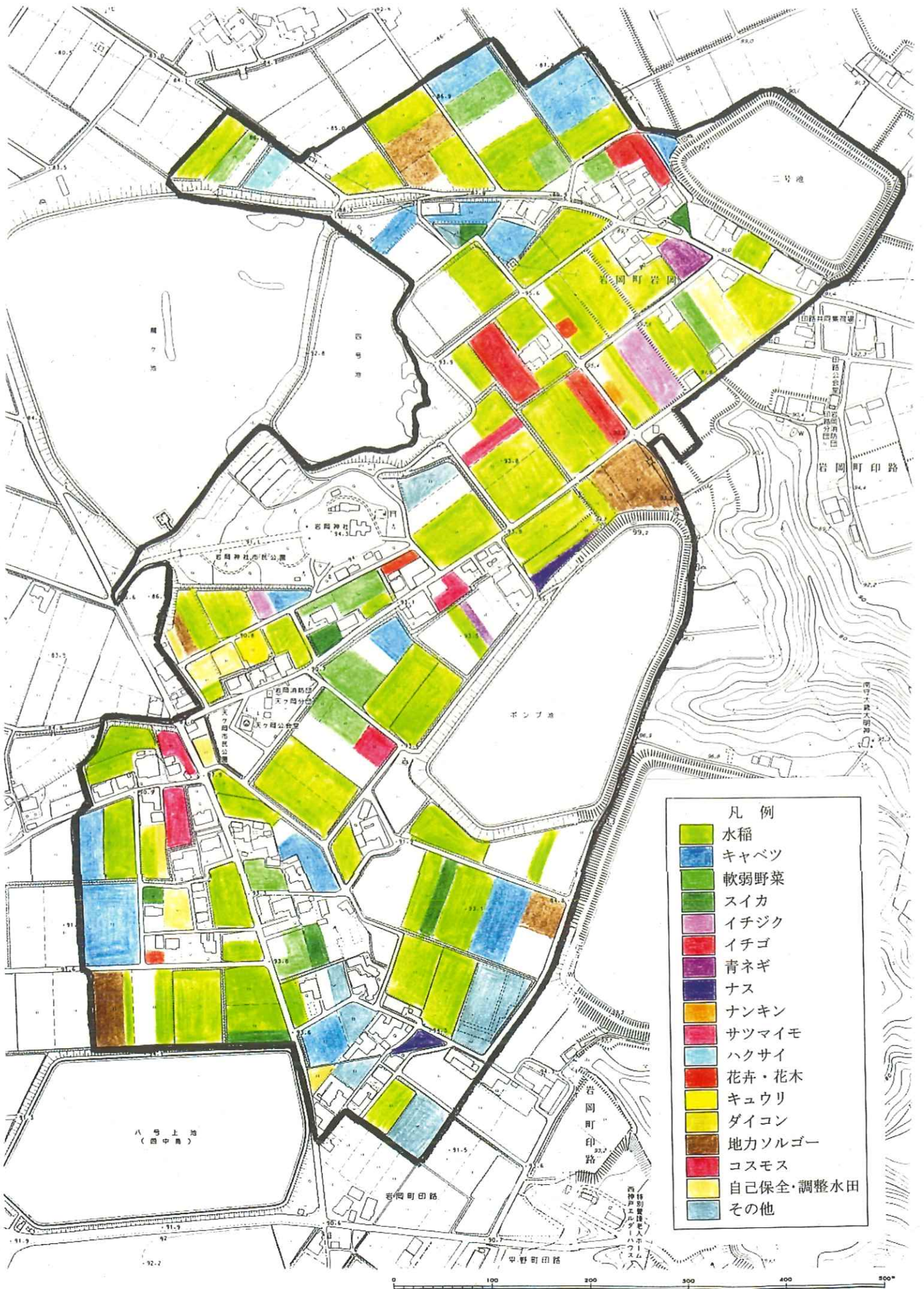
	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年
総世帯数 (戸)	41	41	42	43
農家数 (戸)	28	28	28	28
専業農家	10	9	6	6
第1種兼業農家	4	4	7	2
第2種兼業農家	14	15	15	20
総人口 (推計) (人)	173	161	151	153
男	85	78	74	74
女	88	83	77	79
農家人口 (人)	142	142	138	131
男	57	58	55	56
女	85	84	83	75
農地面積 (a)	2,515	2,467	2,594	2,527
田	2,397	2,352	2,460	2,228
畑	118	99	114	239
樹園地		16	20	60

※ 農林業センサスより

3) 水田利用状況

	品 目	面積(a)	戸数	備 考
水 稲	こしひかり	565.6	13	
	きぬひかり	416.4	10	
	どんとこい	166.1	4	
	計	1,148.1	26	
生 産 調 整	キャベツ	208.1	10	
	軟弱野菜	187.3	6	小松菜, 青梗菜, ほうれん草等
	スイカ	76.2	9	
	イチジク	68.7	4	
	イチゴ	63.2	2	
	青ネギ	36.5	3	
	ナス	36.1	3	
	ナンキン	24.0	1	
	サツマイモ	21.2	2	
	白才	18.8	2	
	花卉・花木	15.3	5	キク, サツキ, ユリ等
	キュウリ	12.6	3	
	枝豆	10.0	1	
	大根	10.7	2	
	ニラ	8.7	1	
	ミニトマト	7.7	1	
	ピーマン	7.2	2	
	サトイモ	7.1	1	
	モモ	1.6	1	
	地力ソルゴー	142.5	5	
	コスモス	30.9	1	
	自己保全	48.8	6	
	計	1,043.2		転作率 47.6%
	休耕	2.5	1	
	合計	2,193.8	29	

※平成 13 年度転作野帳より



- 凡例
- 水稲
 - キャベツ
 - 軟弱野菜
 - スイカ
 - イチジク
 - イチゴ
 - 青ネギ
 - ナス
 - ナンキン
 - サツマイモ
 - ハクサイ
 - 花卉・花木
 - キュウリ
 - ダイコン
 - 地カソルゴー
 - コスモス
 - 自己保全・調整水田
 - その他

4) 旧所・名跡

(1) 岩岡神社

岩岡神社は天和9年(1682)、神出神社より大岩を迎えて氏神としたことに始まり、元禄6年(1693)3月仮本殿拝殿を建立し、同年9月姫路市広峰社より分霊を勧請する。当時八雲山牛頭天王(スサノオノミコトの別名)と仰ぎ、享保6年本殿を改築し、明治7年2月郷社に列せられている。

明石城主松平若狭守直明公は、岩岡一帯の開拓に尽くされたので、直明公の没した翌年の享保7年(1722年)、住民は直明公を偲び、天ヶ岡村に神社を建て正建神として祭った。現在は岩岡神社に祭られている。



(2) 翁の面(豊宮)

岩岡神社の社務所横祠の地下深くに翁の面が祀られている。豊宮さん(豊年の神様)としてあがめられ、旱魃がひどく、一村が危急存亡に瀕した時には、地中より取り出され、お祭りをして雨乞いをした。

この翁の面には次のような伝説がある。昔、越前大野に山藤五郎という能太夫があった。なんとか能の名手になりたいと断食して、伊勢に参宮した。その帰途、宮川のほとりに出ると、川上から翁の面が流れてくるので拾いあげてみると、誠に名作の面である。ところが、顎がない。翌年同じく参宮しての帰り、宮川を渡るとき流れよるものをとりあげると翁の面の顎の部分である。持ち帰って去年拾った面と合わすとぴったりと合った。太夫は非常に感銘して大切にしまっておいた。

その後、太夫は大変貧しくなり、その面を越前屋という質屋に預けた。するとまもなく越前屋には怪しいことが多く起こり、時には電光がひかり、家が震動した。主人は、只事ではないと思い、その面を太夫に返そうとしたが、その時には太夫の家が絶えてしまっていたので、当時の領主松平家に差し上げた。うしとら

松平直明が明石城に移るとともに、翁の面も明石城良(東北)の櫓に移された。廃藩後、直明をまつこの神社に納められたのである。

越前以来、旱魃の際に取り出されると大いに雨が降ったという。享保15年の明石旱魃の時、野口政之丞という人がこの面を掛けて舞ったところ、日数7日にして洪水があったと伝えられている。これを面掛けの神事といっている。



(3) 庚申堂

地神様として霊験高く、住民は皆庚申講に入講している。

元の祠は岩岡神社の大岩より300m北方の小高い丘の松林に祭られていたが、大正4年淡河川山田川疎水工事耕地整理事業の時、天ヶ岡大歳神社とともに岩岡神社境内へ移された。

年3回かのえ申の日に、庚申講講員は宿当番を決め、必ず祭礼を行う。岩岡神社境内の庚申様の祠にまずお参りし、公会堂に帰って庚申様の掛軸を祭り、般若心経を3回唱えて礼拝して庚申祭りを続けている。



5) 郷土芸能

(1) 祇園囃子

毎年岩岡神社で実施される秋の大祭で夜宮と昼宮に、地元宮本講中として四基の御神燈とともに村人達が祇園囃子を吟じながら宮入りをする風習が続いている。

この祇園囃子（ケヤリとも言う）が独特の節回しで幾通りにも吟じられ、他に類を見ない伝統芸能であり、今後も保存していきたい。



祭り宵宮に ご神燈あげて
氏子残らず 宮参り
祝いめでたや 若世の松は
枝も栄える 葉も繁る
竹に雀は 品よくとまる
とめてとまらぬ 色のみち

2. これまでの経過

地域の現況を把握するため、アンケート調査を実施した。

アンケートの中では、地域内にある空き地の利用と集落営農が課題として挙げられた。

岩岡神社境内の空地については、神出や岩岡の他の集落の所有者が多く、天ヶ岡だけでは協議ができないので、利用方法の検討は神社側で別途進められた。

休耕田を利用したいもほり園については、なお十分な協議が必要なため、設置を延期している。

座談会の中では、市民公園の活用について特に提案があった。そこで、集落営農と公園の活用については、営農部会、公園活動部会を設置し、それぞれの部会で協議を進めた。

また、集落の郷土伝統芸能である「祇園囃子」を後世に継承する保存会を組織することとした。

日時	会議名	出席者	協議内容
12年6月24日	里づくり協議会	住民43戸 西農政事務所	里づくり計画樹立の推進について
8月27日	現地調査	役員5人 神戸大学 西農政事務所	地域の概要調査
	里づくり協議会	住民43戸 神戸大学 西農政事務所	アンケート調査の実施について
8月27日 ～9月5日	アンケート調査	農家世帯主26人 農家家族63人 一般26人	合計115人
10月28日	里づくり協議会	住民43戸 神戸大学 西農政事務所	アンケート調査結果の報告 感想、意見交換
13年1月28日	里づくり協議会	住民43戸 神戸大学 西農政事務所	里づくり活動役員の選任について 今後の進め方について
5月12日	役員会	役員12名	集落営農について 公園活動について
7月28日 ～8月14日	集落営農に関するアンケート調査 農家世帯主 30人		
9月14日	営農部会	会長, 営農役員7名 西農政事務所	集落営農について
10月～ 14年1月	農業機械保有状況調査 農家 28戸		
14年2月9日	役員会・営農部会	役員, 営農役員 西農政事務所	集落営農について 里づくり計画(案)について



3. アンケート調査結果

1) 集落概要調査

アンケート調査は、18歳以上を対象に実施し、農家世帯主26人、農家家族63人、一般26人の合計115人から回答を得た。調査内容は、回答者の属性、生活環境の現状、今後の地域整備のあり方、農業経営の現状、今後の農業経営の5つの項目について実施した。調査結果は次のとおりである。

(1) アンケート回答者

- ・回答者は50代が多く、全体として女性がやや多かった。
- ・職業と主な収入源は、恒常的勤務が最も多く、次いで農業であった。
- ・農業と何らかの関わりのある人は、計61人と多く、関わりのない人は約半数の34人であった。
- ・年齢で見ると、20～30歳代では関わりのない人が多く、農業に従事している人は40～60歳代が主であった。

(2) 農業経営の現状

- ・農業収入の割合では、回答のあった26戸の農家のうち、専業農家4戸、第1種兼業農家4戸、第2種兼業農家11戸、自給的農家7戸となっており、兼業化が進行している。
- ・所有農地面積の平均は25世帯で81aであった。
- ・販売金額の最多作目は、米が最も多く11戸、次いで施設野菜6戸、露地野菜4戸となっている。その他に、果樹、花卉でそれぞれ1戸あり、販売のない農家が2戸あった。

(3) 今後の農業経営や農地利用の考え方

- ・今後の農業経営としては、2種兼業志向が多く9戸あり、次いで自給農家志向6戸であった。専業志向、1種兼業志向はそれぞれ4戸ずつあり、農業をやめたい農家も1戸あった。
- ・将来の経営規模は、現状維持が最も多く17戸、経営内容を変えたいで5戸となっている。規模縮小またはやめたいで4戸19人で、拡大を希望する世帯主はなかったが30代の家族で2名あった。
- ・経営内容を変えたいと答えた人で、変えたい内容は、施設園芸で2人、露地野菜で2人、果樹、貸し農園等でそれぞれ1戸となっていた。
- ・農作業受委託や生産組合の組織化については、当分は自分で耕作するが14人、委託したいが1戸、委託したいが心配があるで6戸、経営に参加したい人は1戸となっていた。
- ・農業後継者については、農業を既に継いでいる・継ぐ予定である人は計11人、継がない人は2人、わからないで12人となっていた。
- ・所有農地の将来の利用方法は、将来にわたり農地として利用すると答えた人が最も多く36人、当分の間は農地として利用するが25人、転用または売却の希望は計6人、わか

らないが 26 人であった。将来にわたり農地として利用する、あるいは当分の間は農地として利用すると答えた人は、全回答数の 6 割以上を占めて高くなっている。

- ・農業機械や生産設備の希望では、機械の貸出し制度の要望が高く、57%にあたる 15 戸であった。次いで農業ゴミや廃棄資材の処理場、機械の共同利用、農作業請負制度の充実などがあった。
- ・流通や出荷については、市場価格の情報提供、農協の販売体制の強化で要望が高かった。
- ・農地で困っていることは、特に問題ないで 14 戸、空き缶やゴミが捨てられるで 10 戸あった。

(4) 生活環境

- ・主な外出先は、通勤、レジャーでは神戸・三宮方面、日常の買い物では岩岡町内となっている。交通手段はやはり自家用車が多い。
- ・日ごろ危険だと思っていることは、交通事故の危険、防犯灯が少ないで多くなっている。
- ・健康や衛生面での不安は、ハエ、蚊、ゴキブリ、ネズミが多いが多数を占める。
- ・ほこりや空気の汚れ、騒音や振動、空き地の雑草や不法投棄ゴミなどにも不満を持つ人が多少みられるが、多くは問題ないようである。
- ・便利が悪くて困ることは、75%の人がバスなど交通の便が悪いと答えている。次いで医療施設が遠い、日用品の買い物の便が悪いとなっている。
- ・快適な生活の面では、45%の人が図書館等の文化施設がないと答えている。
- ・今後望まれることは、街路灯の整備で 40%、植栽や花壇を増やしてきれいな町並みにするで 22%となっていた。

(5) 今後の地域整備のあり方

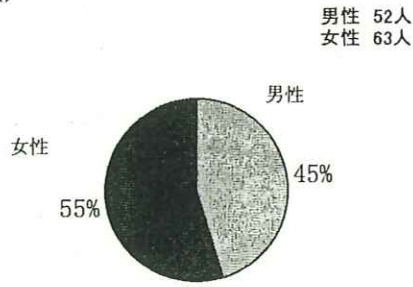
- ・周辺の農地の評価では、緑が多く自然に恵まれていてよい、新鮮な野菜類が入手しやすい、子供達にとってよいなど、プラスの評価が高くなっていた。
- ・今後の地域整備のあり方については、現在の農地はできる限り保全すべきと答えた人が最も多く、47%(54 人)であった。次いで農地の他用途利用は一定区域内に限り、他は保全すべきであるが 20%(24 人)であった。積極的な開発をすべきとする意見は少なく、9 人のみであった。農地の保全志向が高い集落であると言える。
- ・容認できる土地利用の用途は、地区内住民の住宅、公共施設、スーパーや商店の順に多くなっており、地区外からの転入者住宅や事務所、工場などでは容認できる人が少なかった。スーパーや商店というのは、日常生活の利便性の向上を期待したものであることが推測される。

天ヶ岡里づくりアンケート結果グラフ

全回答者115人

(農家世帯主26人, 農家家族63人, 一般26人)

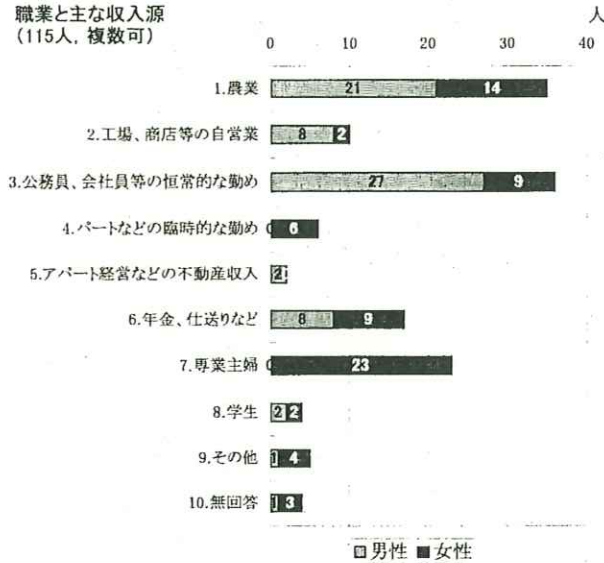
回答者の性別構成
(115人)



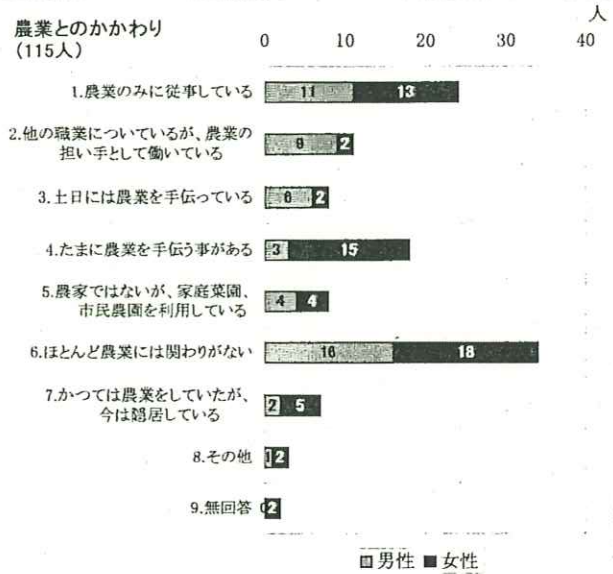
回答者の年齢層構成
(115人)



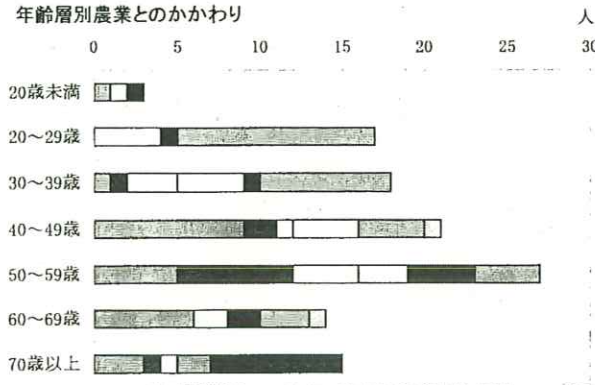
職業と主な収入源
(115人, 複数可)



農業とのかかわり
(115人)

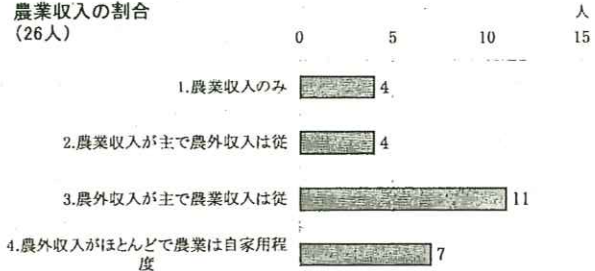


年齢層別農業とのかかわり

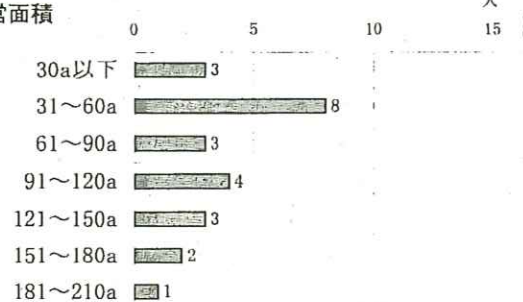


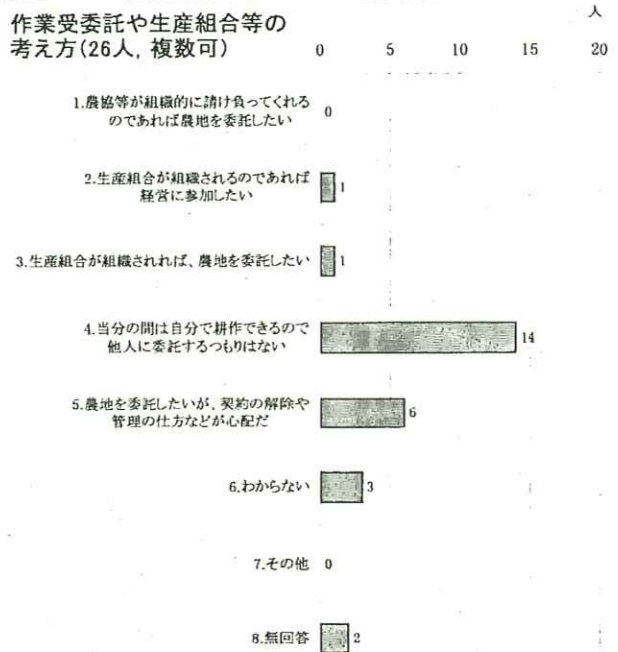
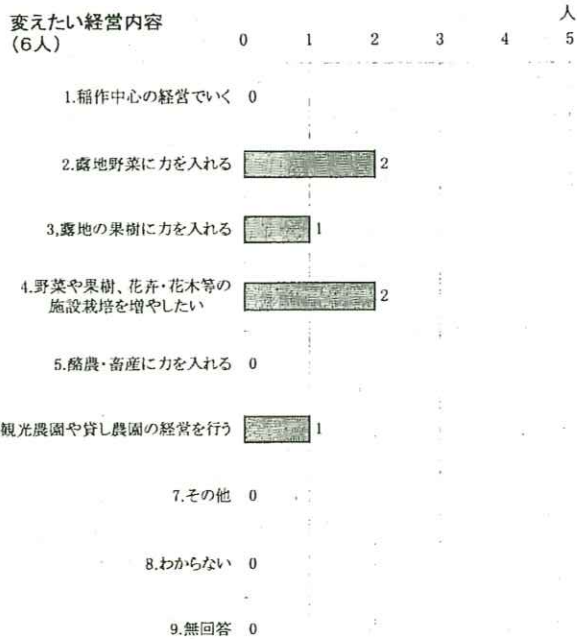
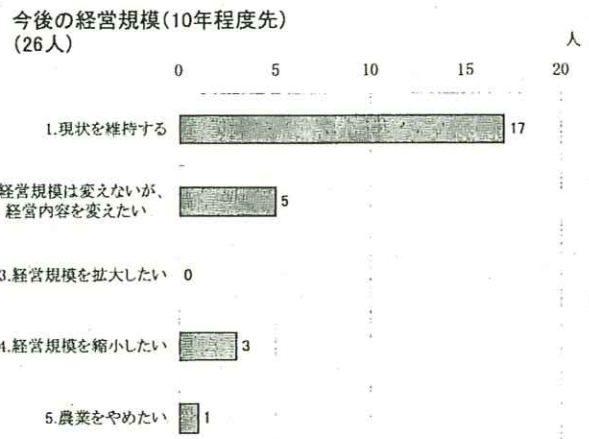
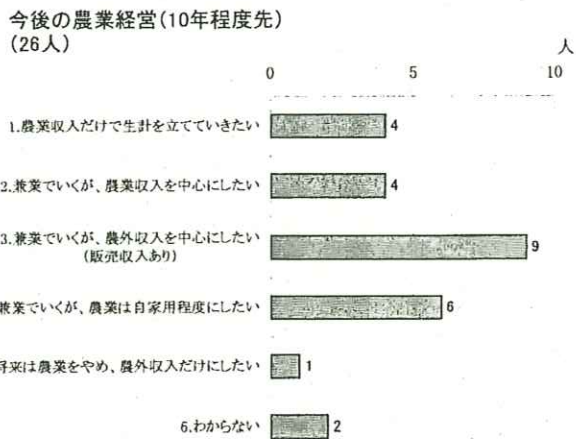
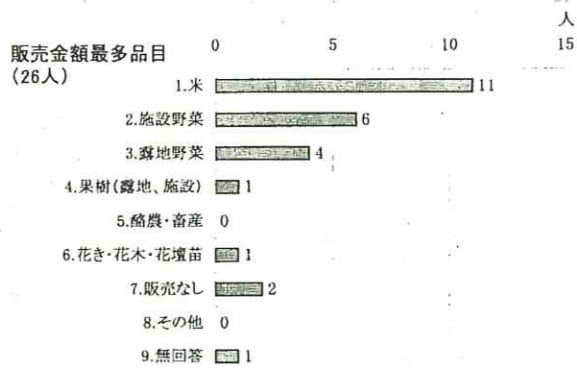
- 1. 農業のみに従事している。
- 2. 他の職業についているが、農業の担い手として働いている。
- 3. 土日には農業を手伝っている。
- 4. たまに農業を手伝う事がある。
- 5. 農家ではないが、家庭菜園、市民農園を利用している。
- 6. ほとんど農業には関わりがない。
- 7. かつては農業をしていたが、今は隠居している。
- 8. その他
- 9. 無回答

農業収入の割合
(26人)

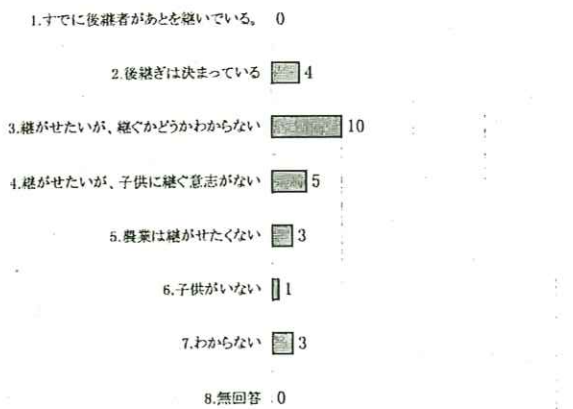


農業経営面積
(24人)

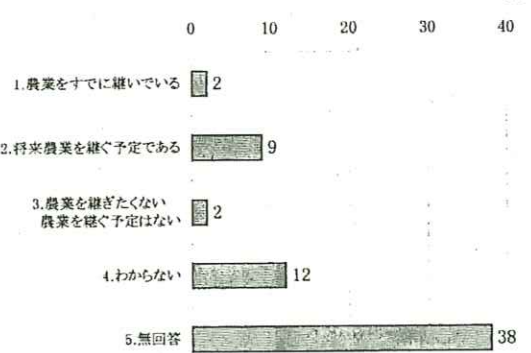




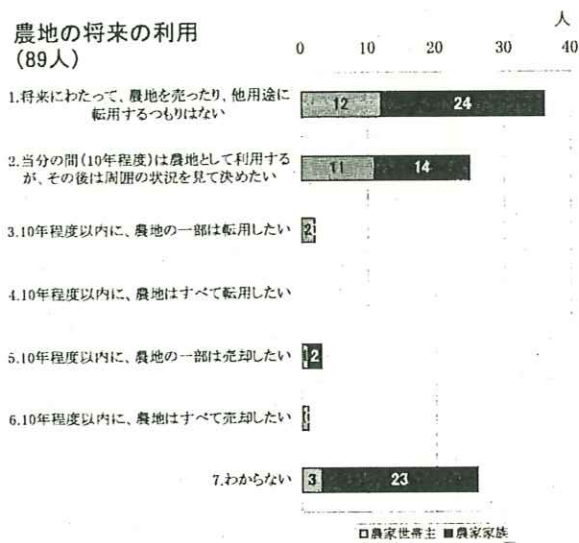
子どもに農業を継がせたいか
(26人)



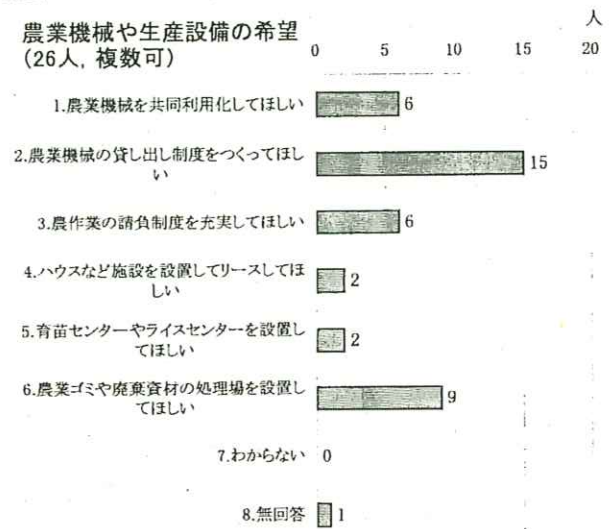
後継者が農業を継ぎたいか
(25人)



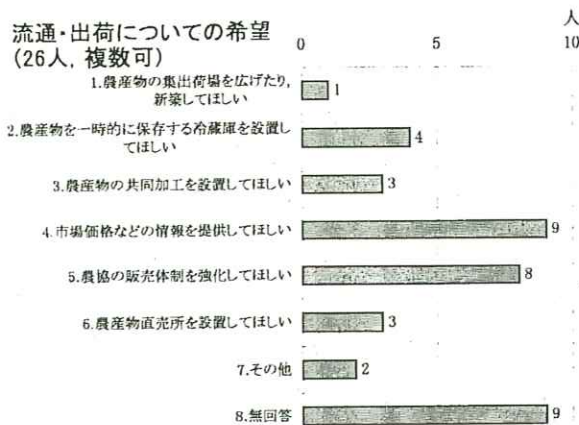
農地の将来の利用
(89人)



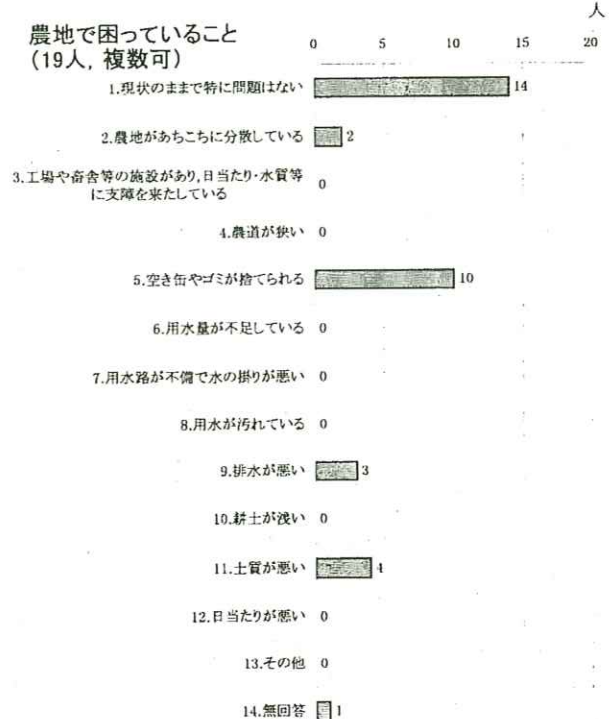
農業機械や生産設備の希望
(26人、複数可)



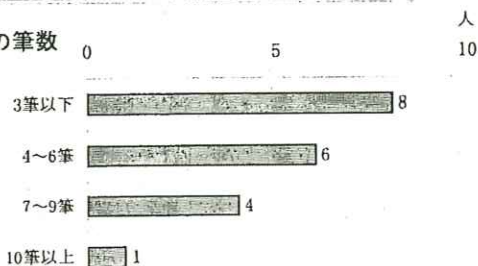
流通・出荷についての希望
(26人、複数可)



農地で困っていること
(19人、複数可)



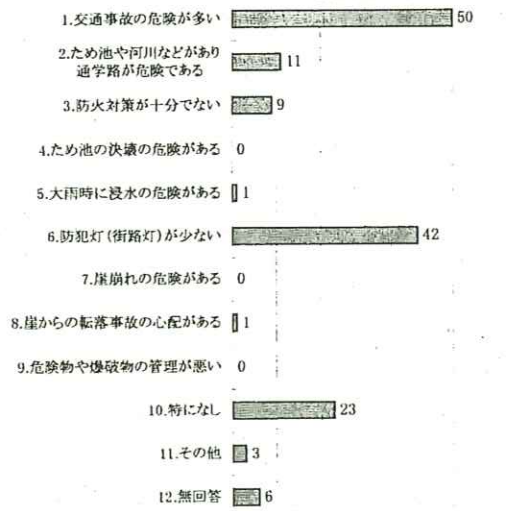
耕作農地の筆数
(19人)



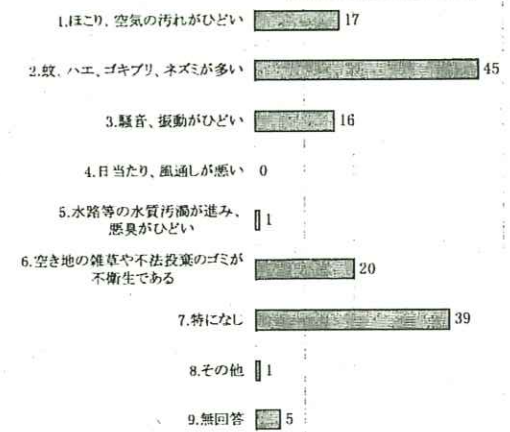
よく外出する方面と交通手段 (115人)

	よく外出する方面	人数	よく利用する交通手段	人数
通勤	神戸・三宮方面	16	自家用車	40
	岩岡町内	14	電車・地下鉄	13
	加古川方面	12	自転車・バイク	3
通学	神戸・三宮方面	4	電車・地下鉄	4
	加古川方面	1	自転車・バイク	3
日常の買い物	岩岡町内	60	自家用車	69
	西神ニュータウン方面	22	電車・地下鉄	5
	明石方面	14	自転車・バイク	5
レジャー	神戸・三宮方面	21	自家用車	32
	西神ニュータウン方面	8	電車・地下鉄	13
	その他	7	路線バス	3

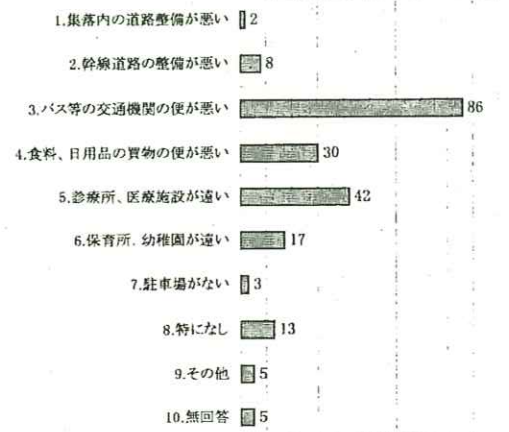
危険や不安に感じること
(115人、複数可)



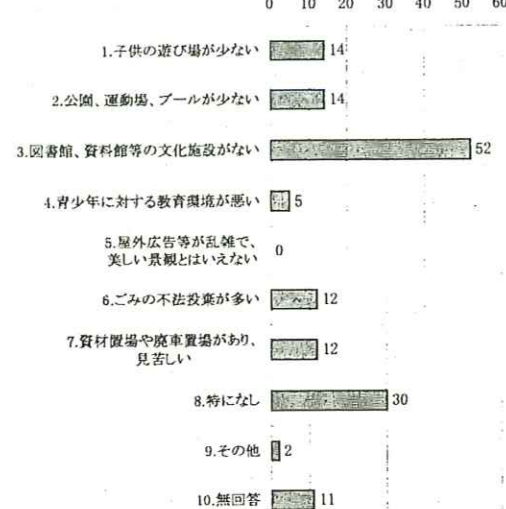
健康や衛生面で不安に感じること
(115人、複数可)



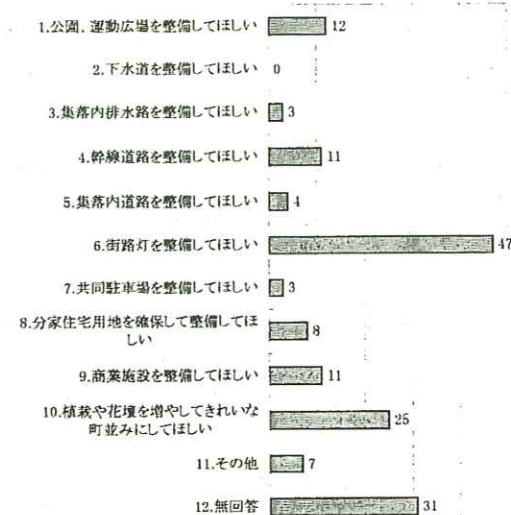
便利が悪くて困っていること
(115人、複数可)



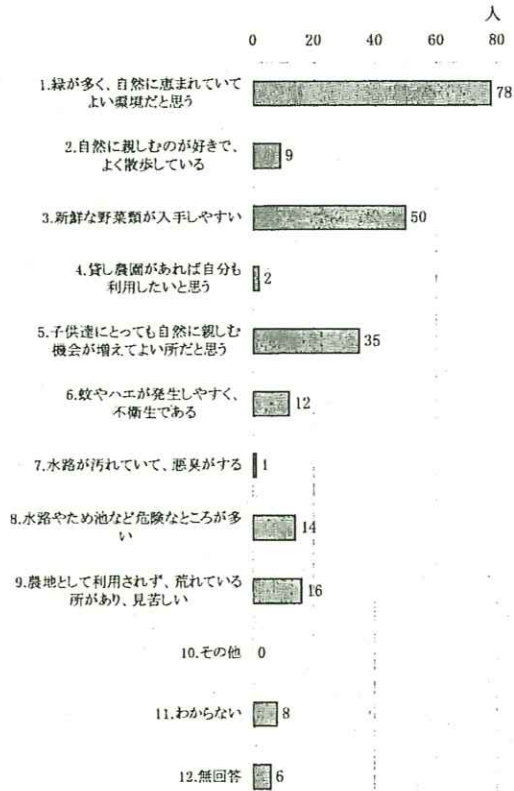
快適な生活の面で不満に感じること
(115人、複数可)



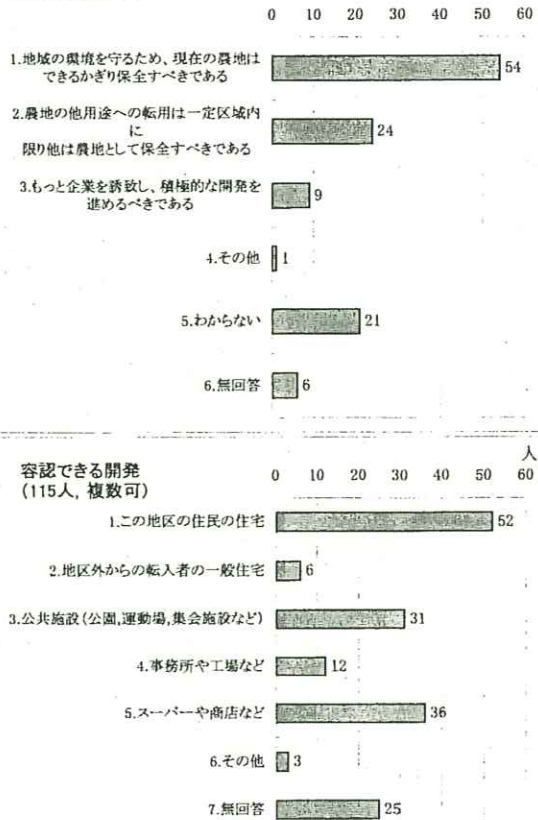
生活環境を快適にするため必要なこと
(115人、複数可)



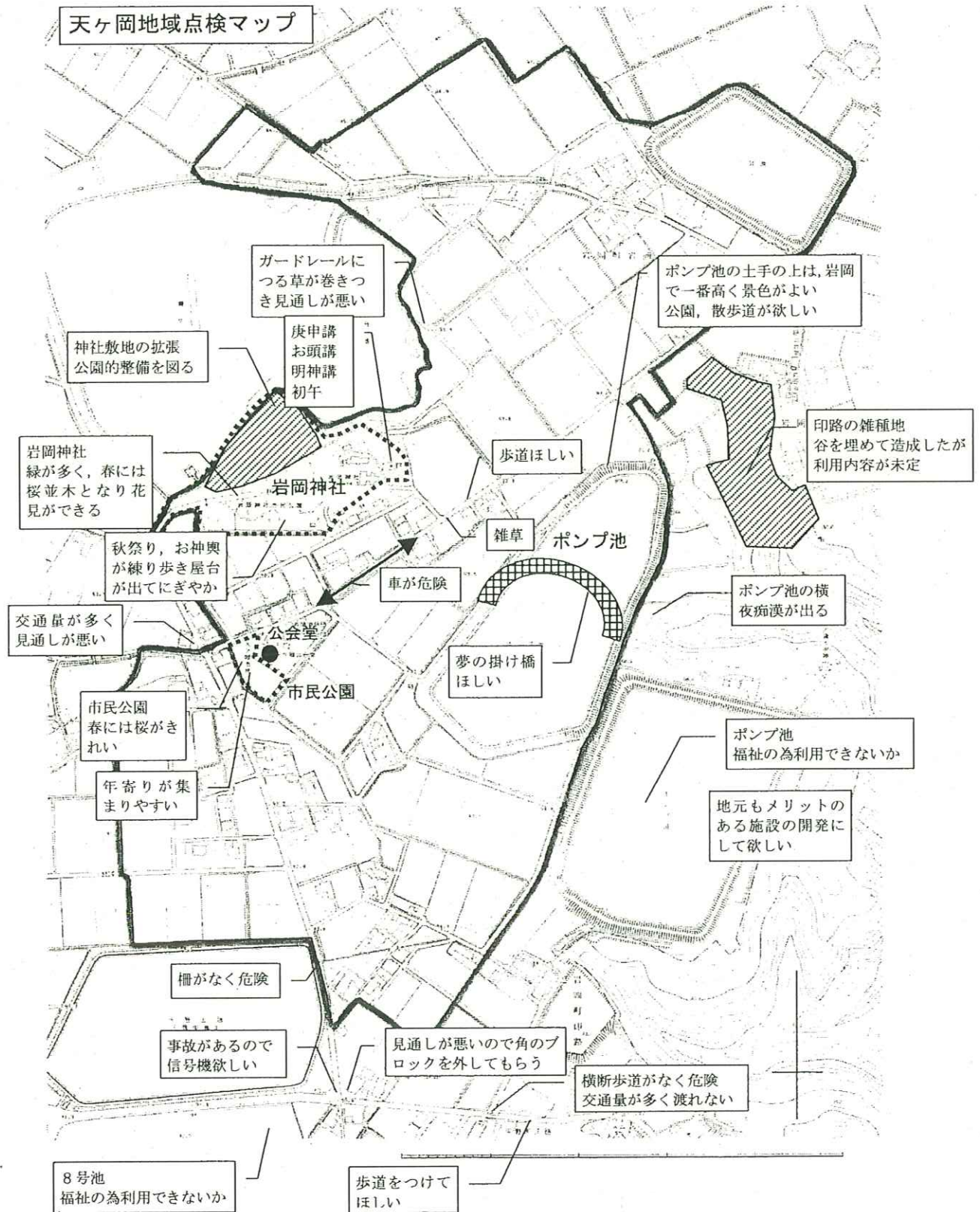
農地や農業の評価
(115人、複数可)



今後の農地利用や地域整備のあり方
(115人、複数可)



天ヶ岡地域点検マップ



アンケート自由記入欄

- ・今後事故防止のため、幹線道路に学生、老人、歩行者専用道路を作ってほしい。
- ・自然が多くてよい地域だと思う。交通機関の便が悪いのは実際自家用車を利用することが多いしバスを利用することも少なくなるので、仕事で三宮方面に出られる人も多いと思うので例えば地下鉄が西神中央から岩岡まであればもっと便利がよいと思う。

- この天ヶ岡集落の里づくりに、キャッチフレーズとしてどんな言葉が良いと考えられますか。(回答者数 115 人)

「天ヶ岡の 21 世紀に希望とゆめを！」 「伝統を守り続けて明るい町づくり」
「クリーン田園タウン」 「未来」 「若者から老人までの和作り」
「ゆとりとりどり天ヶ岡」 「やすらぎの村」
「岩岡の上に位置し、神社・池が多くあり、景観を大事にする必要がある」
「子供がこの村に生まれてよかったなと思える村にする」 「自然のオアシス天ヶ岡」
「自然の原点；やすらぎのむら 天ヶ岡」 「伝えよう、我が故郷を子供たちへ」
「親も子も共に手を取り里づくり」 「緑多く夢大きく」 「心がほっとしませんか？」

- 集落の里づくりに関して何かご意見やご提案があれば、ご自由にお書きください。
(回答者 115 人)

- ・私等は、現在神戸市水道局の池の跡地を管理しているが、この土地を地域住民が楽しい生活に生かせるような方法は無いものかと思う。
- ・農村地域であるので集落営農をどうするかを考えてほしい。
- ・非農家（分家）の人も多いので、そのような人にもいろんな意見を出してもらいたい。
- ・農業からサラリーマンになる過渡期である。兼業で集落営農ができるようにすべきである。また、古い慣習、行事も大事であるが、もう少し簡素化が必要。現状では会社勤務に影響があるし、いろいろと問題が出てきている。
- ・天ヶ岡の周囲には空地が 3 ヶ所もあります。これらを利用開発して、天ヶ岡を外の地域に無い農村都市造りを考える人が出ないものかと期待しています。今であれば西神地下鉄の誘引も可能かと思えます。
- ・兼業で集落営農ができるようになればいいのではないかと思う。

2) 集落営農に関する意向調査

営農部会で集落営農の取り組みについて検討を進めるため、集落営農に関する意向調査を実施した。調査結果は次の通りである。

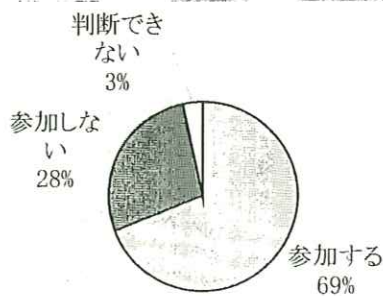
- ・回答者は30人あり、この内集落営農組織に参加すると答えた人は、約70%の20人であった。
- ・参加したい理由としては、機械を共同利用（共同購入）したいが最も多かった。
- ・参加しない理由としては、JA アグリオペレーターを利用した方がよいという項目が多かった。
- ・集落営農組織に対して望む形態は、機械の共同利用の方が農作業委託よりやや多くなっていた。

参加希望者が多いことから、集落営農については前向きに取り組みを進めていく。

取り組みの課題として、アグリオペレーターとの兼ね合いや組織の形態などの問題があるが、部会を中心に研究を進め、集落の事情にあった組織としていくことが重要である。

1. 集落営農組織(機械共同利用・農作業受委託)ができると、あなたは参加しますか。

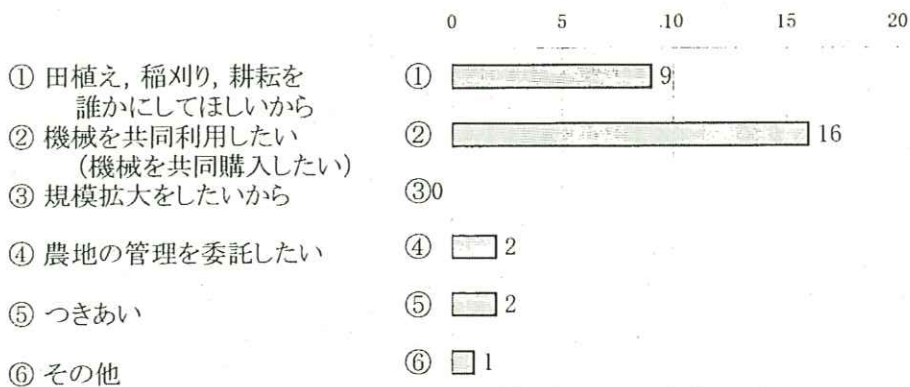
回答数	29人
参加する	20人
参加しない	8人
判断できない	1人



1で「参加する」と答えた方に質問いたします。あなたはなぜ参加したいですか。(複数回答可)

回答数 21人

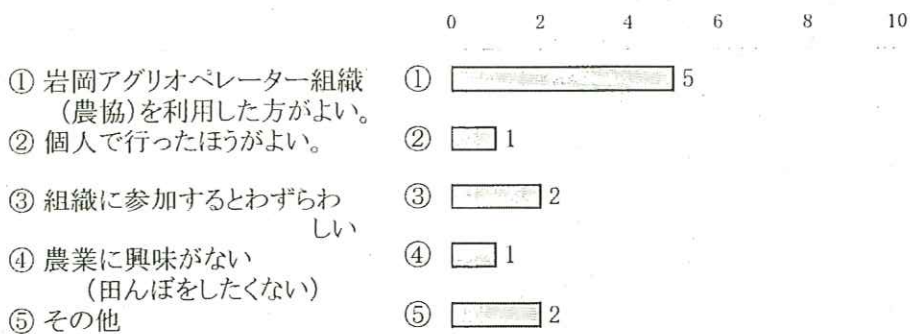
参加する理由



1で「参加しない」と答えた方に質問いたします。あなたはなぜ参加しないのですか。(複数回答可)

回答数 9人

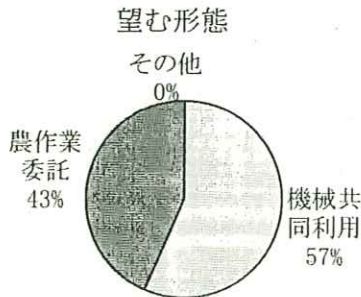
参加しない理由



- ・時間に限定されるから
- ・協同作業するほど耕作地なし

2. 当集落が集落営農組織に取り組むとしたら、まず最初に何を望みますか。

回答数	22人
① 機械を購入し、共同利用	13人
② 農作業を委託できる組織づくり	10人
③ その他	0人



2で「①機械の共同利用」と答えた方に質問します。最初に必要な機械は何ですか。

回答数 14人



3. 集落営農組織について意見を聞かせてください。

1. 集落営農組織作りには協力しますが、ある程度まとまってから参加するかしないか判断したい。
4. すぐには農地を集落で管理するのは難しいと思うので当面はトラクター、コンバイン程度を購入し代かき、稲刈り、等から始めてはどうか。
9. 子供がサラリーマンですので、将来(機械共同利用農作業委託)が必要になります。
10. 特に意識はしていません。
13. 集落営農組織を結成するなら、農協を利用するよりよい条件にしなければならないのでは？
機械購入費用はどれくらいか？多額になると考えもの。
23. 長い時間かけ話し合いにて進んで行ー。
28. 機械を共同購入した場合、あとの経費(管理)がむずかしいのでは？と思ってしまう。
経費の面でも共同利用の面でも農協よりも条件が良ければ参加します。

4. 集落の現況

1) 土地利用の現況



2) 集落内道路の状況



(神戸大学農学部調査平成12年)

3) 航空写真



5. 天ヶ岡里づくり計画

1) 整備の目標および方針

天ヶ岡の21世紀に希望と夢を！

当天ヶ岡集落は、平成2年にはほ場整備工事が、平成9年には集落下水が完了し、道路、水路、農地など生活環境および営農環境は整えられ、公共交通機関の便などのほかは問題の少ない恵まれた地域である。今後は地域コミュニティーなど精神面でのゆとりや豊かさが求められている。

したがって、当地域では「天ヶ岡の21世紀に希望と夢を！」をキャッチフレーズに、次の3つを里づくり計画の柱とし、心のゆとりや余暇を重視した住民が仲良く楽しく過ごせる地域とする。

- ① 市民公園の積極的活用による地域コミュニティーの活性化
- ② 集落営農の検討による農業経営の改善
- ③ 伝統郷土芸能（祇園囃子）の継承

2) 農業振興計画

第2種兼業農家および自給的農家の比率が高く、兼業化が進行している。

専業農家では個人経営では採算の合わない水稻経営から撤退し、その労働力や時間を施設園芸や露地野菜に向けていく。

兼業農家では、労働力のかからない水稻栽培により、農地の保全を行う。また、水稻栽培の合理化はJAのオペレーター部会を活用するとともに、作業受委託や機械の貸し出しを行う集落独自の営農組合などの組織づくりを検討していく。

① 水稻栽培用機械の更新に備える

米の過剰生産などにより米価が更に下落しており、水稻栽培の合理化はこれまで以上に必要となる。今後水稻栽培における農業機械の更新は、個別経営では投資が困難であり、将来の機械更新時に今から備えていく必要がある。

② 農地の保全

JAの農作業受託組織として岩岡アグリオペレーターがあるが、個別に作業委託をすることになれば、委託せず放置されてしまう農地も出てくる恐れがある。またアグリオペレーターも受託面積が増えれば、将来的には手がまわらなくなることも予測される。地域の環境を守るためには、集落全体で農地の保全を考えていくことが必要である。

③ 集落営農の検討

農作業の受託や機械の共同購入など、集落営農の実現に向けて取り組む。このため、アグリオペレーターとの兼ね合いや各農家の負担割合など、詳細について調査や協議を行い、集落営農が有利に展開できるよう検討する。

④ J Aピカリショップの活用

ピカリショップは、新鮮な野菜を消費者に直売することができるシステムであり、集落でも利用している農家は多い。兼業農家や女性農業者には、このシステムを活用することにより、無理なく農業収入アップが図られる。

⑤ 園芸作物の生産振興

専業農家では、主に軟弱野菜（青ネギ、サニーレタス、ほうれん草、チンゲンサイ）およびイチゴ、イチジクのハウス栽培と白ネギ等の露地野菜の生産が行われている。これらの農家には、補助事業の導入等による施設化と雇用農業を推進し、園芸作物の生産を振興する。

また、J Aを通じて量販店と契約し、ダイレクト便として出荷している農家が多く、今後も契約栽培により安定的に農産物を供給し、農業収入の安定を図る。

⑥ 後継者対策

農業後継者は勤めに出ている農家が多いが、将来親が引退したときには農業を継ぐ意思のある者が多く、問題は少ないと思われる。今後、集落営農組合を組織した場合には、サラリーマン後継者にもできる範囲で参加してもらい、組合活動を通じて農業を継ぐ基礎作りとしたい。

3) 環境整備計画

① 公園の活用

市民公園は年一度盆踊りで使われているものの、その他には利用する機会が非常に少ないのが現状である。地域内コミュニティーを活発にするため、グランドゴルフなど、公園の積極的な活用を図りたい。

グランドゴルフは、若者から高齢者までが気楽に楽しめるスポーツであり、周辺集落においても盛んに行われているようである。当地区でも、クラブ活動として、練習を定期的に行ったり、年一度競技大会を開催するなどして、コミュニティー活動を活発化し、高齢者の健康の増進も図る。



② 市民公園の整備



市民公園は、公会堂に隣接し、地域コミュニティの拠点ではあるが、木陰になる高木が少なく、日よけもないため、夏場は公園の利用がしにくい状況である。

日よけのための東屋や藤棚を設置し、ベンチを増設することにより、年寄りや子どもたちが集まり、談話できるような環境整備を行いたい。周囲には緑化も兼ねて花壇や樹木も増やしたい。

③ ポンプ池堤防の散策道整備

ポンプ池の堤防は、岩岡町でも最も海拔の高い場所で、東には雌岡山が見えるなど見晴らしのよい場所である。この堤防の上を整備して、地域の老人たちが散歩できる散策道や休憩スペースなどを作りたい。

また、池の中央に橋を架け、雄崗山、雌崗山をはじめ明石海峡大橋や淡路島を眺められる夢の掛け橋としたい。



④ 緑化と美化

市民公園やポンプ池堤防、主要道路沿いなど、集落の人の集まりやすい所や目につきやすい場所に、花を植えたり植樹を行い、集落内緑化と景観美化を行う。休耕田に菜の花やコスモスを一面に咲かせるなど、集落を訪れる人々にも美しさを楽しんでもらう。

⑤ 街路灯の整備

生活環境は非常に恵まれた集落であり、アンケートでも不満項目は少ないが、安全面の問題として街路灯の設置が挙げられている。夜間、暗くて危険な場所には街路灯を設置したい。

⑥ ポンプ池 2号

地区に隣接するポンプ池 2号は、神戸市水道局の所有であるが、昭和 45 年ごろ公共残土の処分地として市に売却して以来、公共事業の減少などにより未だに何にも利用されていない。管理は地元の水利組合に任されており、堤防の草刈などを行っている。この土地の利用について住民は、資材置場ではなく福祉施設などの地域にメリットのあるものを希望している。

⑦ 隣接集落の土地利用

岩岡町印路集落の中に、谷を埋め立てて雑種地となった土地があるが、進入路の問題で利用が宙に浮いている。この土地の利用については天ヶ岡にも所有者があり、印路集落と連絡をとりながら、地域にメリットのある用途を検討したい。

⑧ 岩岡神社の秋祭りと郷土伝統芸能の保存

毎年 10 月 10 日頃には豊穡を祝う秋祭りが盛大に催される。天狗が現れて愛嬌をふりまき、神輿、お先太鼓をはじめ、各地区からたくさんのふとん太鼓やご神燈「ねりあんど」が、ケヤリ音頭にあわせて宮入りし、威勢のよさを競い合う。また獅子舞が妙技を披露すると祭りも最高潮となり、一大祭り絵巻が繰り広げられる。昔ながらの秋祭りの行事をいつまでも後世に残したい。

ご神燈や祇園囃子を継承するための保存会を設け、集落の有形、無形文化財として後世に引き継いでいくこととする。



⑨ 岩岡神社境内の休耕地

岩岡神社境内に、従前から水がないために耕作されていない農地があり、雑草が生えるなど荒地となっていた。この土地の有効利用について提案がいくつかあったが、神出や岩岡町内の他の集落に多数関係者がいるため、天ヶ岡集落のためだけの利用はできないということであった。この土地の利用については神社の敷地の拡張として造成し、周辺住民の憩いの場となるよう樹木を植えて公園的な整備を図ることとしている。

⑩ 観光農園等

いもほり園等観光農園を開園し、都市の人々と交流することにより、農村の文化を発信したり、地域の農業をアピールする。観光農園の周辺には転作もかねて景観作物を栽培し、美しい景観作りを行う。

4) 土地利用計画

① 環境保全区域

岩岡神社境内を環境保全区域に指定し、環境美化や景観の保全を図る区域とする。

② 集落居住区域

現在ある住宅用地等に将来の住宅建築予定地を含めて連なる区域を、4ヶ所集落居住区域に指定し、集落環境の整備を図る区域とする。

③ 農業保全区域

上記以外の区域を農業保全区域とし、営農環境の保全、整備を図る。

天ヶ岡土地利用計画図

